

相手に届く読み方を

絵本の読み聞かせ演習

奈教大で平城高生が学ぶ



互いに絵本を読み聞かせ合う生徒＝16日、奈良市高畑町の奈良教育大

4、5人ずつのグループに分かれて互いに読み聞かせを行った。

また、大阪市内の公立小学校の教諭で、読み聞かせを実践している安福みゆきさんも講義を行い、子どもたちの生活の中に絵本が根付いていく魅力を語った。

読み聞かせを体験した金山真大さん(17)は「姉を見ていて自分もこのコースを選んだ。絵本の選び方、持ち方など、とても参考になった」と話した。

奈良市朱雀2丁目の県立平城高校(沼田守弘校長)の教育コース2年生36人が16日、絵本の読み聞かせ演習を、同市高畑町の奈良教育大学図書館「えほんのひろば」で行い、

同大の横山真貴子教授から読み聞かせの基本を学んだ。7月に同市のならまちセンターで行われる「絵本ギャラリーin奈良」への参加に向けた取り組み。

横山教授は「絵本は読んでもらうためにある。ゆっくり、はつきり、楽しんで読む」と、実演を交えながら読み聞かせの基本、相手に届く読み方のノウハウなどを講義。その後、

2016年6月17日

奈良新聞掲載